



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
 電話 03-5315-0941
 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子
 毎月1回20日発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2023年7月20日
 第751号



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

定期大会以降

7月に入り続々と!



組織拡大

盛岡
地本

2名

バス東北
(仙台地本)

1名

バス関東
(東京地本2名・大宮地本1名)

3名

大宮
地本

1名

JR東労組に結集し
 共に頑張りましょう!



安全・健康第一に、夏季輸送を 無事故で乗り切ろう!

全国的に警報級の豪雨、35℃を超える記録的猛暑に見舞われる中、各系統での業務、大変お疲れさまです。
 7月15日に秋田県を中心とした記録的大雨により、組合員宅の床上浸水や鉄道施設の甚大な被害が報告されています。今後も起こりうる自然災害に対し、あらゆることを想定し「安全第一」の行動をお願いします。
 今、JR東日本管内の現場では内房線での感電死亡事故をはじめ、「命」に関わる事象が多く発生しています。
 JR東労組は「安全哲学の再確立」を掲げ、4M4E手法にて背後要因から原因究明と真の対策を打ち出す取り組みを提起しています。「安全なしに労働なし!」「本音で語り合える職場風土」「事象が発生した場合の初動体制」「危険と感じたら列車を止める!」など、安全第一を価値基軸とした「職場議論」を通じて、安全で安心して働ける職場を創り上げていきましょう!

秋田地本エリアで記録的大雨 命を守る行動を!



- JR東労組は、以下の4点を取り組みます。
1. 組合員・家族の安否確認
 2. 組合員・家族の被災状況の確認
 3. 組合員・家族への支援
 4. 鉄道の被災状況の確認と復旧

被災された方はJR東労組役員へすぐに連絡を!

申1号

「第42回定期大会発言等に基づく申し入れ」を提出

「第42回定期大会」では、代議員19名から職場現実について多くの発言がありました。
 繰り返し発生している懲罰的日勤教育や、人権侵害・人間破壊と言えざる強制転勤が実施されようとしている現実や、社員への管理強化を推し進めることにより「命や安全」が脅かされていることに対して、JR西日本で発生した福知山線脱線事故の前夜と同じ状況に陥ってしまったとの危機感と、労働組合として安全と、そこで働く労働者を守るために、是々非々の姿勢で向き合っていく重要性を労働組合として実感しています。
 また6月16日未明、協力会社社員が感電・受傷しお亡くなりになる痛ましい事故が発生し、中央本部として「緊急声明」を發出し議論しています。グループ・パートナー会社を含めて、安全問題が重要課題となっています。職場では「安全がトッププライオリティ」と位置づいているとは言えない事象も発生し、「4M4E」分析手法等による徹底した原因究明や「三現主義」の徹底などが薄れ、過去の痛ましい事故に真摯に向き合い学び、労使で築き上げてきた「責任追及から原因究明へ」などの安全哲学や安全風土の崩壊の危機感はないかと危惧しています。
 そして離職者増・採用者減などによる要員不足の中、組織再編や各種施策が矢継ぎ早に進められ、融合と連携による働き度の高まりや、教育・訓練の不十分さ、系統問わず技術・技能継承の課題が発生している実態や声があげられ、安全・サービスレベルの低下がより一層危惧されます。また新たなジョブローテーションの運用においては、幾度となく問題が発生し議論しているにも関わらず、労使の議論経過と確認事項を逸脱する運用が発生し続け、誇りや責任感・意欲の低下に繋がっていることや、適応障害や心身異常により病氣休職をも余儀なくされている事象は、JR東労組として到底看過できません。
 中央本部は代議員からの発言に踏まえ、職場で発生している問題や事故・事象の原因究明と根本的な解決に向け、申し入れを提出しました。今後、安全で安心して働ける職場と風通しの良い職場を構築するために、職場の声をもとに本社と交渉を行っていきます。

申し入れ項目

1. 「グループ安全計画2023」の成果と課題を明らかにし、三現主義の徹底や「4M4E」分析手法等による徹底した原因究明により、安全第一の職場を構築すること。
2. 繰り返し発生するパワーハラスメント行為を撲滅し、安全で安心して働ける職場と風通しの良い職場を構築すること。
3. 異動前後において個々人の特性や得手不得手を正しく把握・尊重し、「新たなジョブローテーションの実施」等の労使の議論経過と確認事項を遵守し、正常に施策を運用すること。
4. 本社主導で行っている知悉度確認の目的を明らかにすること。また、実施する場合は不安や不信を与えることなく、安全レベルの維持・向上に資する取り組みとすること。
5. 技術・技能継承を確実にを行うために、現業機関への技術専任職の配置と指導体制を強化すること。
6. 異動や担務変更等により新たな業務を行う際は、教育・訓練を確実に実施するとともに本人の不安を解消すること。



夏の風物詩、祭りや花火大会が開催されている▼私も4年ぶりに

開催される地元の祭り、神輿を担ぎに出向いた。御仮屋に向かう中、提灯や飾り付けが施され祭りの雰囲気を持ち高揚した▼久しぶりに担ぐ神輿、手間取るも時間と共に感覚を取り戻す事が出来た。休憩の場もいつも通り準備され出迎えてくれた。これは、当たり前のように事前準備がいつもより大変だった仲間から語られた。提灯や配線、飾り等が劣化し、補修や買い替え、道路使用の手続きや警備の配置等、相当な苦勞があったと聞き準備してくれた仲間には頭が下がる思いである。人を思いやる心に触れ、心が豊かになった▼コロナ禍を経て入出が増える中、各職場で検証が必要だ。みどりの窓口や自動改札機の減少、混雑時のダイヤ運用等多岐に亘る。また、離職者の増大と採用数の減少。職場では、要員不足が顕在化している。キャリアプラン無視の穴埋め的な人事異動で病氣休職にまで追い込まれている現実もある▼人を思いやる心がなければ鉄道の安全は守れない。労働組合としてチェック機能を果たし是正させ、安全・命を守らなければならぬ。(S・S)